

2018(平成30)年度事業計画

I〈事業計画の概括〉

昨年は、働き方改革への取組や、政治の分野での様々な変化など、我々の生活にも関連する動きに人々の関心が集まりました。

本年は、平昌オリンピック・パラリンピックや6月のサッカー・ワールドカップなど、世界的なスポーツイベントや催しも数多く開催されます。多くの日本人が世界各地を訪問されると思いますが、それ以上に訪日外国人の数は更なる増加が見込まれ、2020年には4000万人にも達する見込みです。

ACジャパンも一昨年から、「2020年に向け、日本を考えよう」のスローガンのもと、「日本と日本人」を見つめ直すテーマに継続して取り組んできました。本年もその活動を継続するとともに、ダイバーシティへの国際的潮流も鑑み、広告表現におけるバリアフリー対応に着手する計画です。

合わせて、「良いメッセージ、良い驚き、良いデザイン」にあふれた「ACジャパン・クリエイティブ」を目標に、社会の問題を考える・解決するきっかけをつくるという、公共広告の原点に立ち返った活動にも取り組んでいきます。

また調査活動、広報活動という他の2つの事業につきましても、さらなる改善を加えて活動を展開していきます。

II〈活動方針〉

ACジャパンの活動の基本は、広告を通して、少しでも世の中のお役に立つ活動をしていくことです。そのためにも質の高い広告によって人々の心を捉え、強く印象付けていくことが重要です。

2018年度も2017年度と同様「新たなACジャパン・クリエイティブ」を目標に掲げながら、

①公共広告の原点に立ち返り、社会の問題を改めて見つめ直すこと。

②広告におけるコミュニケーションの質を高めながら、さらなる革新を図ること。

に取り組んでいきます。具体的には、ACジャパン初の試みとして、バリアフリー広告対応を行い、聴覚障害のある方や外国人への情報保障の取組に着手します。

また、様々な理由から会員社離れも起きていますが、ACジャパンの活動を継続していくためには、会員社の維持・増加が必要です。広告活動のレベルアップを図るとともに、会員社の勧誘活動にも引き続き取り組んでいきます。

さらに民間会員社の有意義なボランティア活動であることを広く世の中に知ってもらい、会員増にもつなげるべく、広報活動のレベルアップも図っていきます。

「ACジャパン広告学生賞」

昨年より新たに新聞広告部門を新設し、「ACジャパン広告学生賞」と名称を変更しましたが、今年も「テレビCM部門」「新聞広告部門」の両部門で、「ACジャパン広告学生賞」を実施しています。

「テレビCM部門」では、参加校29校、作品総数は185点の応募がありました。

グランプリ、準グランプリに選出された作品は、BS民放9社で7月より1年間放送される予定です。

「新聞広告部門」では、参加校21校、作品総数288点の応募がありました。グランプリ、準グランプリに選ばれた作品は、全国紙5紙で掲載される予定です。表彰式は、両部門とも3月9日に汐留・電通ホールで行いました。



新聞広告部門グランプリ：
「命も、権利も捨てないで。」
企画：東北芸術工科大学
ビジュアル自体がメッセージと
なっているデザインの良さが際
立つ作品。「権利」を改めて気
づかせてくれるキャッチコピー
で強い訴求力をもった作品。

新聞広告部門準グランプリ：
「ぼくらの学校」
企画：静岡デザイン専門学校
きれいで洗練されたイラストが、
優しく温かい雰囲気をつくって
いる。忘れがちなテーマの再認
識を呼び起こす作品。

2.調査活動

2018年度も「公共広告に関する生活者調査」と「会員社アンケート調査」を実施します。ACジャパンの活動への理解度、名称の認知度、さらに2017年度に実施したキャンペーンの評価、2019年度に向けて展開すべきテーマなどを調べ、今後の活動につなげます。

3.広報活動

ACジャパンの活動を、より幅広く理解していただくことを目標に、プレス向けニュースリリースの発行など、広報活動の強化を図っていきます。会報誌「ACジャパンレポート」は、従来通り表紙デザイン制作で全国の制作会社にもご参加いただき、より一層親しみやすく、充実した紙面づくりを目指していきます。

ACジャパンの歴史やこれまでの作品を紹介する映像資料DVD「AC2018」も、改訂を図りながら昨年と同様に作成し、コミュニケーションツールとして活用していきます。また会員社増強に向けて、小冊子「ACジャパンのご案内」やリーフレットを改訂・制作し、ACジャパンの活動に対する理解と参加への呼び掛けを図っていきます。そのほか、各種団体・大学などでの講演活動などにも積極的に協力していきます。